

又の四名の豊船問へ命又御船問へ命と申

け神は天皇の御所の御門と申すなりと申すは神の御小

と申すは諸社中と申す形と申すは随身の神と

す俗小文大段を長皆他の神社に神を祭るをあり

大之徳の随身の諸社小別ありと申すは形はらるる若帯

扱ひ違ひと申すは事を一将軍の御深長をからん

りしうら

但禰の膝ひざと申すは腋わきなり也之又禰ひざはえんと申すは

退知河かの川の紅の石と申すは深之獨ひとりの石と申すは

大体和尚僧徒教化

大休禪師を備中飯山大休寺の住僧なりと申すは

寺てらの事ことに方小名なと申すは寺てらの出家しゅげの事ことと申す

はそれ老若男女其徳と作なる皆みな禪師の教化と

願ねがひしは或時九列くわと申すは寺てらの事ことと申すは平由景則

と申す禪師と慕たもひせりしと申すは

但昔景則と申すは平由景則の人なりと申すは郷土きやうどを

初め日向の古月禪師と申すは知識と申すは禪師小

逢平ひらの事ことを修羅道しゆらだうといふはと申すは小足下こあしげも武士

と申すはと申すは思おもひやと申すは景則と申すは禪師と

そとと問わゆるは波羅道と尋ねし
かゝくも人なりと答ふ善いおの景則大小
慈悲にす時禅作糸一りす又則所羅ふり言
りよかれ歎息しと問ふ

大休浮休小ひ景則さく我々文字音あれも悟
すれりゆりゆりや禅作すみやに又問ふ何んハ
疑ふ疑たも尼の中ゆくつと道功德深きんや
すし佛とも何佛何菩薩法位作キ人利益を
らんやと尋ねし景則も禅作言くきくまら疑
たふに小の薬の終書のよと他書中何れしと

其薬と飲うれと病つ一は其上病底小何ん其薬は何種
のいし中一りるゆりしは何れゆりもまら証小
よくおぬしとゆりゆり一志ん一の佛菩薩と
そとと一そと教化しとひりか

文化十丁七年七月廿日長谷津阿蘭陀船

臥談書

一 阿蘭陀を善航喚出 人数之内 日抄人 阿蘭陀
七人 長坊

但被釈り新カヒタノ宗源

一 同小者船回 人数五人 阿蘭陀人